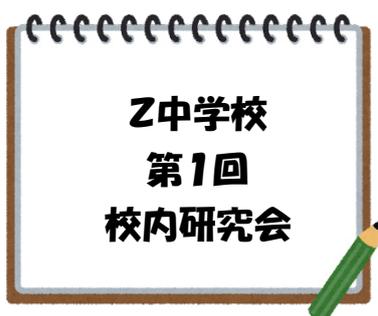


校内研究活性化プロジェクト研究通信

第2号 令和5年(2023年)6月2日発行

木々の緑が色濃くなる時期となりました。5月24日(水)Z中学校の第1回校内研究会を参観させていただきました。校内研究の初回ということで研究主任から研究主題の説明やG-OJTを取り入れたグループごとのテーマ決定に取り組まれていました。その姿はまさに教員の協働的な学びの姿だと感じました。プロ研通信では、この研究会を「新たな教師の学びの姿」という視点で分析してお伝えしたいと思います。



Z中学校 研究主題

教科の指導と生徒指導の一体化

～生徒指導4つの視点の授業づくりで韌やかな生徒を育む～

注目したポイント

「えんたくんミーティング」を活用した
協議における教員一人ひとりの学びの姿

「えんたくん」とは?

『えんたくん』は直径が1メートル程の丸いダンボールの板です。人々が円座になって、膝の上に『えんたくん』をのせると『場』と『対話』が劇的に変化します。さらに会議、教室、フェスなど人々が集う場所で手軽に使える『えんたくん』は『場』と『対話』を変えるだけでなく、ファシリテーションや課題解決、合意形成の方法も大きく変化させます。」

「えんたくん革命 1枚のダンボールがファシリテーションと対話と世界を変える」2018年 川嶋 直、中野 民夫(著)より

Z中学校では、このツールを校内研究会で使用されていました。丸いダンボールには2つの同心円が描かれていて、円の外側から内側に向かってテーマに沿った内容を協議しながら順に記入していくことで、テーマの焦点化や考えの集約がされていきました。

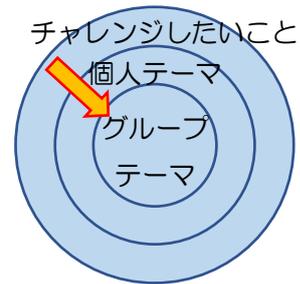


協議で使用された「えんたくん」

「えんたくんミーティング」の進め方

今回は、この「えんたくん」を活用して、グループテーマを決定していく「えんたくんミーティング」が、次のような流れで実施されました。

- ①個人テーマの記入
- ②グループテーマの案とテーマに迫る手立ての協議
- ③ワールドカフェの手法でグループ間の交流
- ④グループテーマの確定



(実際に説明に使用されたスライドを基に作成)

①個人テーマの記入

まず、一番外の円に教員一人おひとりが今年度取り組んでみたいと考えておられること（チャレンジしたいこと）を記入されました。次に、一つ内側の円に取り組んでみたいことを基にした個人テーマを記入されました。



「えんたくんミーティング」の様子

②グループテーマの案とそのテーマに迫る手立ての協議

グループメンバー全員の個人テーマから共通点を探り、グループテーマの案を話し合われていました。この時点で決定されたグループもあれば、決定されていないグループもありました。テーマが決定したグループは、そのテーマに迫る手立てについての協議を始めておられました。

③ワールドカフェの手法でグループ間の交流

ワールドカフェの手法を用いて、グループリーダーのみがグループの席に残り、あとのメンバーは他のグループの席に着き、ここまでの協議について交流されました。

④グループテーマの確定

ワールドカフェで他のグループから得た考えを参考にしながら、グループテーマを確定されました。

教員一人ひとりのニーズ（個人テーマ）と学校のニーズ（研究主題）をつなぐ過程を参観させていただきました。ミーティングの姿から、まさに先生方の「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現させる手立てだと感じました。

では、ツール（「えんたくん」）を使えば、どの学校でもすぐにこのような姿が実現できるのでしょうか。答えは、もちろん「否」でしょう。



活発な協議を生み出すために

参観させていただいた「えんたくんミーティング」の様子は活気にあふれ、教員一人ひとりが主体的に協議に参加していることが一目で分かりました。

そのような活発な協議の場を生み出したのは他でもない校内研究主任の先生です。

そこで、校内研究主任にこれまでの取組についてうかがうと、

4月時点で校内研究主題に向かう四つの視点から一つを先生方に選択してもらう。

→選択してもらうことで自己決定を促し、校内研究を自分事として捉えてもらう第一歩を踏み出す。

5月上旬にグループが決定され、第1回校内研究会で自身が今年度チャレンジしたいことは何かを前もって考えておいてもらう。

→校内研究の中で一人ひとりの課題を設定し、主体性を生み出す。このことにより全校体制の土台が作られる。

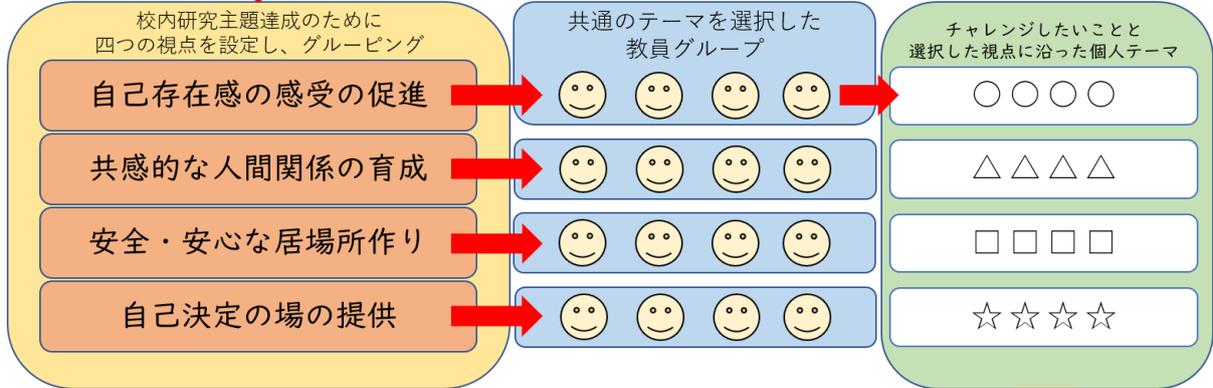
計画的な準備と「えんたくん」というツールがかみ合った結果、活発な協議が生まれたと考えられます。

「本当のニーズ」を見つけるために

研究主題

教科の指導と生徒指導の一体化

～生徒指導4つの視点の授業づくりで韌やかな生徒を育む～

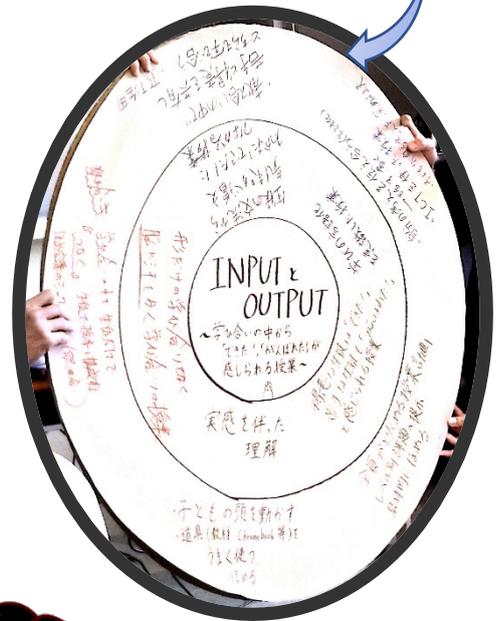


第1回プロジェクト研究会でトータルアドバイザーの辻教授がお話されていた『自己の思い(なりたい自己)』と『他者の思い(求められる自己)』が一致したものが『本当のニーズ』だ」ということを想起しながら、Z中学校の校内研究会を参観させていただきました。

ここでの「自己の思い(なりたい自己)」は、チャレンジしたいことや個人テーマであり、他者の思い(求められる自己)は「グループメンバーとの協議」や「校内研究主題」ではないでしょうか。

個人のテーマを作成し、グループテーマを作成する過程で共通のテーマを選択した先生方は、互いの個人テーマとの関連も考えながらグループテーマを作成しておられました。これは自己の思いと他者の思いをつなげるうえで、とても重要な姿だと感じました。

Z中学校のみなさん、今回の校内研究会を公開開催していただきありがとうございました。今後どのように校内研究が進んでいくのかを楽しみにしています。



発表されたグループテーマ

研究会に参加してくださった先生方が活発に協議されていて、ほっとしました。次は、今日決めたテーマを日頃の授業にどのように入れ込んでいけるかを考えなければいけないと思います。

(研究会後の対談より)



Z中学校研究主任



研究員 稲益 圭吾



研究員 島内 佑祥